北海道公立大学法人札幌医科大学　保健医療学部

保健医療学部通信

第16号
令和3年6月発行

学部長ごあいさつ

保健医療学部長　大日向　輝美

コロナ禍の発生より１年。当初の予想に反して、今尚、更なる影響が懸念されています。最近は、家庭内・職場内感染の拡大、重症患者の年齢低下など、第3波までとは異なる様相を呈してきました。本学においてもこの4月以降（5月10日現在）学生・教職員5名の感染が確認されたほか、家人の感染により濃厚接触者となる者が増えており、危機感を強めているところです。

新学期は感染対策に最大の配慮を払いつつ対面授業を実施して参りました。しかし、道内の感染拡大による行動制限レベルの変更により、５月から当面の間、オンライン授業を併用することと致します。各学年とも週１、２日は対面授業を予定していますが、この便りがお手元に届く頃には制限が強化されている可能性があります。

振り返りますと、学生たちは制約の多い生活に耐えながら学びを重ね、大変な1年を乗り越えてきました。とりわけ現2年生に関しては、入学式は中止、授業は初めからオンライン、部活動は休止となり、クラスメイトや先輩、教員との交流も行えないなど、大学生として経験できたはずのことができない日々を過ごしました。このような困難な時期に入学し、登校もままならない1年を過ごした2年生の努力を讃えるため、4月7日大学講堂において1年遅れの入学式を執り行いました。大学が挙行する式典ではなく、学部教員と学務課職員による簡素なものでしたが、改めて入学を歓迎するとともに今後に向けたエールを送る場となりました。昨年手を通すことのなかった真新しいスーツ姿の2年生を壇上から眺めながら、ポスト・コロナの時代を担う学生たちの学びを守ることが大学の使命であるとの思いを新たに致しました。

保護者の皆さまにおかれましては、くれぐれも感染予防にご留意の上、元気にお過ごしくださいますようお願い申し上げます。

【令和３年度 学事予定】（1～4学年）

４月　５日		新入生オリエンテーション
４月　７日		前期講義開始
６月２５日		大学記念日
７月１５日	～　７月３０日	前期定期試験（４年生 看護）
８月　４日	～　８月２７日	夏季休業（１・２・３年生）
８月　２日	～　８月２０日	〃　（４年生 看護）
８月　９日	～　９月１０日	〃　（４年生 理学）
７月２６日	～　８月　９日	〃　（４年生 作業）
９月　７日	～　９月２５日	前期定期試験（１・２年生）
８月３０日	～　９月１０日	前期定期試験（3年生 看護）
８月３０日	～　９月１７日	前期定期試験（3年生 理学・作業）
９月２７日		後期講義開始（１・２年生）
１０月１４日	～１０月１６日	体育祭
１２月　３日		文化芸術祭
１２月２０日	～　１月　３日	冬季休業
２月１５日	～　３月　４日	後期定期試験（1・2年生）
１月２４日	～　１月２８日	〃　（3年生 理学）
２月１５日	～　３月　４日	〃　（3年生 作業）
３月１８日		卒業式

新入生オリエンテーション

学科長ごあいさつ

看護学科長　今野　美紀

ご入学・ご進級おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症流行により、医療や看護をめぐる過酷な報道等がある中、看護学を学ぼうと高い志をもち、本学看護学科にご入学された皆さんを心より歓迎しております。

本学看護学科では、新型コロナウイルス感染症流行禍においても、様々な工夫をしながらカリキュラムの質を保ち、学び進められるよう工夫しております。一例を示すと、看護実習は、人との関わりが密な学習である為、これまでの運営が困難で、変更を余儀なくされました。国内外の先進事例を参考に、教員間で検討を重ね、代替実習案を練りました。この過程は、私たち教員にとっても初めての経験ゆえに手探りでした。学生の皆さんは、コロナ禍でもシュミレーション学習、インターネットを介した遠隔実習等、様々な方法で実習できる事に感謝の気持ちを表し、他者の発言に耳を傾け、自分の考えを伝えようと積極的に発言し、これまでの看護実習に劣らない成果を示してくれました。また、日々の講義・演習や研究活動でも学生の皆さんは、「コロナだから出来ない」に終始せず、「今、できること事は何か」と状況を冷静に見極めながら、ウイズ・コロナ、ポスト・コロナの時代の看護学の基盤を私たち教員と一緒に創造してくれています。制約の多い毎日であっても、丁寧に時間を積み重ね、学び進めている姿に希望を感じます。

保護者の皆様におかれましても、ご健康に留意され、ご支援を頂きますよう、どうぞよろしくお願いします。

理学療法学科長　小塚　直樹

本年3月、理学療法学科19名が卒業、その後の国家試験合格発表では全員が合格し、本学科で培ったPTプライドを携え、各自の晴れやかなステージへと巣立っていきました。年度改め、新入生20名が4月2日に入学しました。新入生オリエンテーションも無事終了し、大学生活に馴染み始めた頃だと思います。この20名も卒業時には同様のPTプライドが身につくよう、養成に向けて努力する所存です。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症は本学科の臨床教育に多大な影響を与えております。臨床能力（技術力、判断力）の養成には、良質の演習、実習が欠かせませんが、その提供に様々な困難が付帯している現状です。しかしながら附属病院、関連病院との連携調整を軸に、学科教員が一丸となり、状況に応じたベターな臨床教育が実践できるように創意工夫して参ります。どうぞご安心下さい。

教員の活動は、感染状況の変化による連動を強いられるものの、落ち着きを取り戻しております。この平常心が、本学科が重要と考える理学療法学の教育、臨床、研究のバランスを重視した学生指導スタイルを支え、最適な養成課程を支えていると考えております。これからも教職員一同、学生の個性を最大限に尊重し、豊かな人間性と高度な臨床能力の養成が備わるように努力いたします。保護者の皆様におかれましては、本学科の方針をご理解いただき、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

作業療法学科長　松山　清治

新型コロナウイルス感染症は世界中で拡大し続けており、未だに終息の兆しすら見えていません。コロナ禍の中で学生の皆さんは本来の学生生活と掛け離れた制限の多い生活を強いられ、これが心身に及ぼす影響は計り知れないものがあります。この一年間教員も教育に関して様々模索してきました。感染防止措置として実施された遠隔授業は一定の効果は見られたものの、学生の皆さんが抱いた不安や困難は教員側にも伝わり、教員と学生が向き合う心が通じる教育の重要性が強く認識されるに至りました。この感染症が早く克服され、本来あるべき教育スタイルを取り戻せる日が来ることを待ち望んでいます。

昨年来医療に注目が集まっていますが、これは感染症克服のみで終結するものではなく、ポストコロナでも注目すべき医療上の問題が多々あります。その一つとして、わが国は諸外国に先行して超高齢化社会を迎え『人生100年時代』も現実となりつつあります。高齢化の進行により心身の衰えであるフレイルや脳障害である認知症は増加の一途にあり、今後家族や社会に一層の負担が強いられることは必至です。これらの治療やケア方略の発展は、わが国の公衆衛生上の優先課題であり、その方略としてリハビリテーションは重要な位置を占めます。近年の科学技術の進歩に伴い医療分野でも様々な技術革新が起こり、作業療法分野においても新たなリハビリテーションの創造が必要とされています。大学4年間の教育は創造力の基礎を培う上でとても大切であり、作業療法学科教員一同、学生の皆さんが将来創造力を如何なく発揮できるよう教育に心血を注いで参ります。

昨年度からの新型コロナウイルス感染症への対応について　　小塚直樹

昨年度当初より、新型コロナウイルス感染症に対する国や道の方針に基づき、本学では独自に「新型コロナウイルス感染拡大防止のための札幌医科大学の行動指針※」を設定し、教職員および学生の行動を制限してきました。

昨年度中は、感染拡大の状況に応じて、「制限レベル４～２」を適用しました。今年度当初は、「制限レベル２」を適用していましたが、再びウイルス感染がまん延してきたことに伴い、直近では「制限レベル３」を適用しつつ、授業、演習、実習の形態も制限レベルの変更に応じながら変化しております。

１．授業

「制限レベル4」では登校を禁止し、全講義をオンラインで実施しました。「制限レベル3」ではオンライン講義を中心に実施し、一部の演習、実習等は感染拡大防止措置を講じ、対面講義で実施しました。「制限レベル２」では感染拡大防止措置を講じた上で、対面講義で実施。ただし、感染拡大防止措置上、対面講義の実施が困難な場合は、オンライン講義を実施する/オンライン講義を積極的に利用しました。この対応と感染対策グループの活動が奏功し、学内での感染者報告はありませんでした。またオンライン講義への移行も遠隔授業支援グループのサポートにより、大きな支障なく、今年度に引き継がれております。

２．補講対応

昨年度途中で発熱等の疑似症状を訴え、症状によっては自宅待機措置となる学生が散見されたため、学内で協議し、健康状態の経過を観ながら自宅待機期間の補講を行うこととし、出席上の不利益が生じないように配慮しております。

３．振り返り

教員、学生双方が経験したことのない教育体制に飲み込まれ、努力を必要とした悪戦苦闘の1年でしたが、各自が保健医療学部の方針を十分理解し、取り組んだと考えています。遠隔授業は、受動教育にはある程度有効である反面、能動教育には多くの工夫を要しました。各学科共に臨床/臨地実習の代替手段を実施しており、新しい教育方法の可能性を見いだしましたが、患者との距離感はいかなる方法にも替えることが出来ないことを実感したのも事実です。以上の通り、今後の授業運営の課題は明確となり、教務委員会での検討課題として引き続き審議して参ります。

保護者の皆さまにおかれましては、新しい生活様式に沿った有意義な学生生活を送ることができるようなご支援をいただきたいと考えております。

※URL : https://web.sapmed.ac.jp/jp/section/publicity/jmjbbn000000p56s-att/jmjbbn000000qca7.pdf

学部における感染対策について　　感染対策グループ

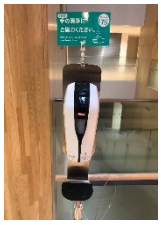
感染対策グループでは大学での安全な授業の実施に向けて環境整備を行うとともに、昨年から今年4月までに全学部生を対象に計5回の感染対策ガイダンスを実施しました。また対面授業期間には各クラスで学生感染対策係を輪番制で決め、講義室の消毒物品の補充や換気・消毒の声かけなどに主体的に取り組んでもらい、学生と一体となって感染対策の充実に努めてきました。

令和3年4月からの全学年対面授業実施に向けては、各講義室の定員数を減らし、机と机の間隔を保つ配置に変更するとともに、長机や教卓にはアクリル板を設置して飛沫防止対策を講じました（写真①）。また、全開講科目の座席表を作成し、各学生の座席を固定としました。これは、万が一、陽性者が出た場合にすみやかに濃厚接触者を特定し適切な対応をとるためです。

学生の意見も取り入れ、講義室に設置しているアルコール・タオル等の消毒物品の増設、自動消毒噴霧器、足踏み式石けんポンプ等を設置しました（写真②③）。また密を回避しながら学生同士の交流が保てるよう、学生ホールにもアクリル板を設置し使用を再開しました。最も感染リスクが高くなる昼食時の黙食を徹底するようポスター掲示も更新しました（写真④⑤）。

札幌市内では変異株の急拡大にともない、若年者の感染増加、医療病床のひっ迫が深刻になっています。5月より再び対面授業の機会は減りますが、引き続き感染対策を徹底するとともに、学生一人一人が、コロナ禍の最前線で対応する人々に心を寄せ、将来の医療人として責任ある行動を継続できるよう支援して参ります。

①長机のアクリル板


②自動消毒噴霧器

③足踏み式石けんポンプ

④学生ホール

⑤黙食ポスター

保健医療学部学生表彰

保健医療学部では、毎年度、本学部を卒業する学生と進級制限が設けられている2年生を対象に、学業成績および人物が優秀で他の範となる学生を最優秀者、優秀者として表彰する制度を設けています。
令和２年度は以下の学生が表彰されました。

☆高木　美千子（看護学科・最優秀賞）

この度はこのような賞をいただき大変光栄に思います。2学年次は、コロナ禍でのオンライン授業など学習環境が従来と大きく異なりましたが、熱心に指導して下さった先生方や共に勉強に励んだ友人達など、周囲の多くの方々の支えによりやり遂げることができました。とても感謝しています。今後は新たにスタートラインに立った気持ちで、今までの学習を生かし主体的な学びができるよう、より一層努力していきたいと思います。

☆伏見　日和（看護学科・優秀賞）

この度は優秀賞をいただき、大変嬉しく思います。私がこうして大学で多くの学びを得られるのは、両親や先生方、周囲の仲間の支えがあるからだと考えています。今後もこれまでの学びを生かし、支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、より一層勉学に励んでいきたいと思います。

☆原田　未来（理学療法学科・最優秀賞）

この度は理学療法学科の最優秀賞を頂き、大変光栄に思います。これから先は専門科目がメインになってくる為、一人前の理学療法士になれるよう気を緩めず精一杯勉強に励みたいと思います。また、日々自分を支えてくれる家族や先生方、同級生への感謝の気持ちを忘れず人間としても成長していけるように頑張ります。

☆渡瀬　茉子（理学療法学科・優秀賞）

この度は、優秀賞を頂き大変嬉しく思います。今後はこれまでの大学生活を支えてくださった先生方や家族に感謝を忘れることなく、どのような環境においても学習できる機会を大切にしたいです。3年生となり、より専門性の高い知識を学ぶ機会が増えますが、さらに努力を重ね、自分の目標に向かって成長できるよう勉学に励んでいきたいと思います。

☆宮田　双葉（作業療法学科・最優秀賞）

大学生活3年目を迎え、自分自身の将来について悩み、考えながら勉学に励む日々を送っています。コロナ渦でも、このように私達学生が学び続けられるのは、常に最善の講義をしてくださる先生方のおかげであり、私自身さらに学びを深められるのは、共に学ぶ同期のおかげです。支えて下さる全ての皆様に感謝しています。今後もこの賞に恥じることのないよう、努力を惜しまずに日々精進していきたいと思います。

☆吉田　真花（作業療法学科・優秀賞）

この度は作業療法学科の優秀賞をいただき、大変嬉しく思います。このような賞をいただけたのは、一緒に勉強や課題に励み、わからない部分を自分の納得がいくまで教えてくれた同期のみんなのおかげです。心より感謝いたします。今後も仲間を大切にして、この賞に見合うことのできるように、努力を重ねていきたいと思います。

令和２年度卒業生の国家試験合格状況

●看護師国家試験は51名が受験し、全員が合格しました。（合格率100%）
　看護師国家試験18年連続合格率100%を達成しました！！

●保健師国家試験は22名が受験し、全員が合格しました。（合格率100%）

●理学療法士国家試験は19名が受験し、全員が合格しました。（合格率100%）

●作業療法士国家試験は21名が受験し、19名が合格しました。（合格率90.5%）
　（※既卒者2名含む。既卒者2名を除いた合格率:100%）

※合格率（全国平均）
●看護師国家試験…90.4%
●保健師国家試験…94.3%
●理学療法士国家試験…79.0%
●作業療法士国家試験…81.3%